

調査の概要

1. 調査の方法と内容

各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校担当箇所、所管する高等学校の海外修学旅行並びに修学旅行以外の海外研修の実施状況について調査を依頼し、以下のとおりまとめた。

なお、海外修学旅行・研修で東京都（私立）、福岡県（私立）の実施状況については本協会の独自調査による。愛知県の私立学校に関しては、愛知県私立中学高等学校協会の協力を得た。

- (1) 調査の期日 平成 17 年 5 月 1 日現在
- (2) 調査対象 各都道府県並びに政令都市教育委員会、各都道府県私立学校担当箇所と、新たに政令市(2005 年 4 月 1 日)となった静岡市を調査対象に加えた。
- (3) 調査事項
 - イ.平成 16 年度海外修学旅行の実施校数、参加生徒数、実施時期、日数、旅行費用、訪問国
 - ロ.平成 16 年度海外研修の実施校数、研修内容、研修先国名、参加生徒数、実施時期
 - ハ.国内航空機利用修学旅行の実施状況
 - ニ.平成 17 年度修学旅行の実施基準

2. 集計及び区分け等

データは各県並びに政令指定都市教育委員会、各県私立学校所管部署からのデータを集計し、一部本協会独自の調査データを加えた。

海外修学旅行・研修とも出国数をベースとし、学校の実施形態に応じた集計とした。訪問国は、旅行という観点から大陸区分によったが、グアム・サイパンは北アメリカに、モルディブ・パラオ等はその他として集計した。

海外研修は 3 ヶ月未満の学校が主催する語学研修、ホームステイ、教科の特性を生かした実習・研修、姉妹校交流等をまとめ、研修内容の区分は本協会独自の仕訳によった。

調査の結果概要

1. 平成 16 年度海外修学旅行の実施状況

765 校（公立 354 校・私立 411 校）が実施し、133,523 人の生徒が参加した。公立高校では 8.6%、私立高校では 31.1%の実施率となる。

旅行件数は延べ 975 件（公立 367 件・私立 608 件）であった。昨年、重症性呼吸器症候群(SARS)の発生やアメリカによる対イラク軍事活動の発動、テロに対する安全情報の発出等で海外修学旅行等が多くの学校で見送られたが、前年度の調査から 358 校・67,296

人の増加となった。

旅行先は、オーストラリアが 192 件 29,490 人と最も多い。ニュージーランドの 56 件 9,184 人及び 2ヶ国実施の 1 件 80 人を加えると、オセアニアで 249 件(全体比 25.6%)、38,754 人(全体比 29.1%)であった。

次いで、北アメリカの 197 件(同 20.2%)、25,609 人(同 19.3%)、韓国 180 件(同 18.5%)、23,966 人(同 17.9%)、東南アジア 141 件(同 14.5%)、20,350 人(同 15.3%)、ヨーロッパ 101 件(同 10.4%)、11,122 人(同 8.4%)、中国 85 件(同 8.7%)、12,445 人(同 9.4%)であった。

単独国としては、中国(対前年約 21 倍)、韓国(同約 2.5 倍)が大きく伸張している。

(1) 公立高等学校

354 校が実施し、参加生徒数は 54,397 人であった。前年度に比べ、204 校 32,820 人の増加となった。

旅行先(件数)は、韓国が 110 件(全体比 30.0%)、14,686 人(同 27.0%)と最も多く、32 道府県で実施されている。次いで、東南アジア 80 件(同 21.8%)、13,877 人(同 25.8%)、オセアニア 65 件(同 17.7%)、12,314 人(同 22.9%)、北アメリカ 60 件(同 16.3%)、6,418 人(同 11.9%)であった。

(2) 私立高等学校

411 校(実施件数 608 件)が実施し、参加生徒数は 79,126 人であった。

旅行先は、オセアニアが 184 件(全体比 30.3%)、26,440 人(全体比 33.4%)、北アメリカ 137 件(同 22.6%)、19,191 人(同 24.3%)と、2 方面で私立全体の過半数を超えている。次いでヨーロッパが 88 件(同 14.5%)、9,107 人(同 11.5%)、韓国 70 件(同 11.5%)、9,280 人(同 11.7%)と前年度と傾向は変わらない。実施県をみると、韓国、オーストラリアとも 36 都道府県で実施されている。

(3) 公私立中学校の状況

一部県において、中学校での海外修学旅行の実施が見うけられ、参考資料として掲載した。

平成 16 年度は、104 校 8,606 人(公立 33 校 2,627 人、私立 71 校 5,979 人)の実施があった。公立中学校は西日本・九州地方の学校が多い。旅行方面は、韓国(23 件 2,407 人)をはじめとして近隣諸国が多い。一部で自治体の費用負担等がある。

私立中学校は、オセアニア(30 件 2,475 人)が最も多く、北アメリカ(20 件 1,910 人)、イギリス(10 件 660 人)と英語圏が多い。

2. 平成 16 年度海外研修の実施状況

900 校(公立 482 校、私立 418 校)が実施し、参加生徒数は 27,964 人(公立 11,426 人、私立 16,538 人)であった。研修延べ件数は、1,110 件(公立 517 件、私立 593 件)にのぼる。

研修先国は語学研修を中心とした内容から英語圏が多く、オセアニアが 481 件（全体比 43.4%）、11,469 人（全体比 41.0%）で公私立とも最も多い。次いでアメリカ・カナダを主とした北アメリカ 285 件（同 25.7%）、6,913 人（同 24.7%）、そしてヨーロッパとなっている。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が 699 件で、公立では全件数の 52.3%、私立で 72.4%となっている。小数ながらインド・バングラディシュへ親善訪問、現地校支援活動等の研修を行っている学校もある。

学科の特性として、公立では農業実習、社会福祉研修、工業高校での技術研修・見学、音楽レッスン等、私立では調理実習、病院介護施設訪問等が行われている。

公立高校においては、複数校が同一研修に参加している事例が多く、件数は校数に比して多くない。

(1) 公立高等学校

482 校（517 件）が実施し参加生徒数は 11,426 人であった。

研修先国はオセアニアが最も多く、233 件（全体比 45.2%）、4,939 人（全体比 43.2%）の実施を数える。次いでアメリカ本土・カナダを中心とした北アメリカが 118 件（同 22.9%）、1,667 人（14.6%）、ヨーロッパ 56 件（同 10.9%）、814 人（同 7.1%）が多い。件数こそ他方面より少ないものの、参加人数では韓国 2,498 人（同 21.9%）、中国 1,164 人（同 10.2%）が国際理解・国際交流での研修が多い。

研修内容は、ホームステイ・語学研修が 270 件（全体比 52.3%）、5,235 人（全体比 45.8%）と半数近くを占めている。次いで国際交流・国際理解研修が 117 件（同 22.7%）、4,039 人（同 35.3%）と多い。

(2) 私立高等学校

418 校（593 件）が実施し、参加生徒数は 16,538 人であった。

研修先国は、オセアニアが 248 件（全体比 41.9%）、6,530 人（全体比 39.5%）と最も多く、北アメリカの 167 件（同 28.2%）、5,246 人（同 31.7%）、ヨーロッパ 103 件（同 17.4%）、3,078 人（同 18.6%）となっている。

研修内容は、ホームステイ・語学研修、短期留学が 78%と圧倒的に多い。次いで国際交流・国際理解を目的とした研修が 9.7%となっている。学校間交流 5.4%となっている。

(3) 公私立中学校の状況（参考）

263 校で実施され、実施件数は 213 件、参加生徒数 4,850 人であった。公立では、国際交流・異文化理解を中心とした体験学習としての実施が多い。費用も自治体が全額負担や一部負担のケースがある。私立ではホームステイ・語学研修が最も多い。また、一部では高校と合同で実施されているところもある。